

資料4 学校沿革誌 平潟小学校

設置廃止設備

明治五年学制ノ頒布セラル、ヤ区戸長及有志協議シテ本町二百拾一番地鷹岡恣所有ノ家屋ヲ借受ケ開校五洞学舎ト称ス然ルニ該校舎ハ辺隅ニ位シ加フルニ道路数所ノ洞門アリテ児童通学ノ不便ナルニヨリ明治七年二月一日官ノ允准ヲ得テ全町百七拾一番地海徳寺ヲ借入移転ス且ツ校名ハ一般村名を冠スベキ令アリ因リテ平潟小學校ト改称ス  
明治十七年十一月学区々画學校ヲ改定セラル、ニ際シ高等平潟小学校ト称ス明治拾九年四月小学校令發布セラレ小学校ヲ分チテ尋常高等ノ二等トセラル、ニヨリ平潟尋常小学校ト改称ス(以下略)

資料5 大正十二年度 校務日誌 幸久尋常高等小学校

九月一日 土曜日 天気曇后大雨あり 温度(正午) 八〇度  
児童職員等記事略  
始業式 第二学期始業式午前八時ヨリ庭ニ於テ举行ス  
訓話事項 一休ミ中ノ経験ヲ利用シテ一層勉強スルコト  
一増ニ勉強ノ好時節ニ入ルコト  
一日本学期中本校ニ於テ品評会及展覽会開催ノ筈  
整頓 式後各所分担所業ノ整頓ヲ行ツテ開放ス  
強震 正午強震アリ職員事務最中餘リ強カリシ為家外ニ避難ス  
校舎被害 西舎ノ仕切戸二ヶ所ハツレ戸タオル、壁ノハリヌケル、理科室東玄関ヌケル。其他各所ガラス破ル。

九月三日 月曜日 天気曇后雨アリ 温度(正午) 八四度  
朝礼 一学級役員任命  
訓話、九月一日以来ノ震害及東京方面ノ火災ノ惨状ニツイテ修繕 震害ヲ受ケテ破損セル西舎及東舎ノ仕切戸修理ヲナス  
大工二人從事ス  
一時限短縮各所ノ整理ヲナス  
教授 森山学務委員、岡田平氏  
来訪

九月四日 火曜日 天気晴 温度(正午) 八八度  
朝礼、訓話

便所手洗水ノ使方ニ注意スルコト  
便所廊下ヲ下駄ニテ通行セヌコト  
教育改善案目録提出ノ件  
東京より避難するものに対する救護の件  
避難民救護の為、校下列車着毎二河合駅ニ出張救護ニ従事セラレ  
七月八月分宿直料、講話会出張手当、点呼出張手当計三六、五九

資料6 日立町郷土誌 日立第二尋常高等小学校

第一目次

第一章 沿革ノ概要  
 一 位置ノ所在  
 一 歴史  
 一 併合分離等ノ年月変遷  
 一 地形ノ地勢  
 一 地質ノ土質  
 一 地味  
 一 近海ノ潮汐ノ概況

第二章 氣候ノ対スル大体弊見  
 一 氣候ニ對スル位置  
 一 觀測ノ度數  
 一 觀測ノ位置  
 一 氣象ノ廣表  
 一 最長ノ狭ノ方向長サ及ビ平均ノ長サ

第三章 總面積其他  
 一 用途別地積  
 一 人口  
 一 人口ノ積  
 第四章 人口ノ積  
 一 現住戸數及職業別  
 第五章 産業ノ積  
 一 主ナル産業ノ積  
 一 産業ノ積  
 一 産業ノ積  
 一 産業ノ積  
 一 産業ノ積  
 (以下略)

資料7 連合軍指令等綴 小里国民学校

告  
 一 全校職員各通牒毎捺印  
 一 分教場ハ通知(分教場職員ハ本校通牒へモ捺印)

「ナシ」  
 昭和二十年十一月十日 茨城県教育課長

秘 各中等学校長  
 各青年学校長  
 各国民学校長 殿

教員調査ニ関スル件

今般調査ノ必要有之、貴校職員中左記ニ依リ該当者至急  
 折返シ秘扱ニテ報告相成度

一 軍国主義者ト認めラル者  
 二 極端ナル国家主義者ト認めラル者  
 三 連合國進駐軍ノ目的政策ニ明ニ反対ノ態度ヲ示シツツアルト

認メラル者  
 一 該當者ノ職氏名並ニ事由ノ概略ヲ記スルコト  
 二 該當者ノ職氏名並ニ事由ノ概略ヲ記スルコト  
 三 該當者ノ職氏名並ニ事由ノ概略ヲ記スルコト  
 四 該當者ノ職氏名並ニ事由ノ概略ヲ記スルコト  
 五 該當者ノ職氏名並ニ事由ノ概略ヲ記スルコト  
 六 該當者ノ職氏名並ニ事由ノ概略ヲ記スルコト  
 七 該當者ノ職氏名並ニ事由ノ概略ヲ記スルコト  
 八 該當者ノ職氏名並ニ事由ノ概略ヲ記スルコト  
 九 該當者ノ職氏名並ニ事由ノ概略ヲ記スルコト  
 十 該當者ノ職氏名並ニ事由ノ概略ヲ記スルコト  
 (以下略)

資料 8 給食関係公文書綴 小瀬第一小学校

昭和二十二年十一月二十六日 学校給食用脱脂粉乳代納入について

脱脂粉乳千ポンド第一回納入分

一金 壱万壱千円也

(中略)

(品名 数量 蛋白質 熱量)

脱脂粉乳入り味噌汁 青菜馬鈴薯 味噌で味噌汁を作り最後に水溶きした

脱脂粉乳を加へる

味噌汁 青菜馬鈴薯

味噌で味噌汁を作り最後に水溶きした

◎煮込み 大根人参牛蒡を乱切りにして煮干しを加へかぶる位の水を加へて煮る 野菜の軟くなつた時塩で調味し濃く水溶した脱脂粉乳を加へて暫く煮る

◎脱脂粉乳のスープと鮭缶詰の付合せ 馬鈴薯人参を一糲角に切り一人一合位の水で煮る 野菜の軟くなつた時裏ごしにかけ塩で調味し最後に濃く水溶した脱脂粉乳を加へる 鮭缶詰は付合せる

◎野菜のクリームかけ 脱脂粉、小麦粉、油でクリームを作る 里芋煮干は塩醬油で薄味をつける ホーレン草は浸しにする 皿に里芋とホーレン草を盛りクリームを添える

資料 9 昭和三十七年十月起学校給食沿革誌 常陸太田市西小沢小学校

本校給食の経過

世界第二次戦の敗戦により我が国も未だかつてない深刻な種々の問題を  
 かもした殊に食糧難により国民の生活は甚大なる影響を及ぼした 如何な  
 学童の体位の劣り甚しく教育上にも甚大なる影響を及ぼした 如何な  
 る対策をたてるに於ても給食の開始が叫ばれて来た方法がたない 幸にも  
 米国の放出物資による給食の開始が叫ばれて来た方法がたない 幸にも  
 かる事であるのでよ長は知りつつも実施にふみきるの易い事だ  
 ①昭和二十二年十一月十九日 この打開策として資金を得る道は考へた先づ  
 なし施設をせねばならぬと蝗による資金獲得を考え全児童員し蝗取りを  
 円となつた 三貫五百匁を売却することが出来た その金額壱万五千三百  
 ②昭和二十二年一月三日 却に児童より一人につき藁五把づつ寄付を得六百三拾四把集まり その売  
 入による金額式千式百円となり やつと資金も出来たので給食用具を購  
 ③昭和二十二年一月九日 炊事場を利用して 味噌汁をささやか  
 な野菜を持ちより薪も持参させ 炊事場を利用して 味噌汁をささやか  
 ながら開始した ◎学校給食開始 (以下略)

資料10 水害状況並諸調査 昭和十三・十六年 川田尋常高等小学校

資料10-I 御真影奉遷ニ関スル件報告

昭和十三年七月四日 茨城県知事 狭間 茂殿 安誠正

標記ノ件ニ関シ去ル六月三十日校舎ノ浸水甚ダシキニ及ビ

シ為メ一先水戸市三の丸小学校奉安殿ニ奉還致シ候

処七月四日ニ到リ減水シ危険ナキ状態ニ復シ水戸市トノ

交通モ安全トナリシ為メ全日午後五時警官護衛ニテ

間此段御届ケ申上候

資料10-II 水害被害状況調査ニ関スル件報告

昭和十三年七月十二日 茨城県学務部長 宮田為益殿 安誠正

昭和十三年七月七日附学発第一七五号ヲ以テ御照会ニ

相成候標記ノ件左記ノ通り及報告候也

一 御真影ノ奉遷ノ有無並状況

六月三十日午後五時奉安殿床上ニ浸入セルヲ以テ直チニ職

員四名護衛ノ下ニ水中腰ヲ没スル中ヲ通過シ午後六時

無事水戸市三の丸小学校奉安殿ニ奉遷ス。後奉安

殿ヲ清浄シ安全ナルヲ見計ラヒ七月四日午後六時護衛

ノ下ニ職員二名ト共ニ自動車ニテ奉安殿ニ奉遷ス

二 臨時休校ノ日数及事由

七月二日迄登校不能 校舎浸水掃除片付等ニヨリ授業

ナス能ハザルヲ以テ七月六日迄休校ス其ノ間人夫児童ノ

一部ヲ招集シ復旧作業ニ従事セルモ尚十分ナリ故ニ

三 罹災児童数及程度

七月十日迄授業一時間乃至二時間ニシテ他ハ作業ス

四 校舎校具及校地ノ被害状況

(一)校舎及附属物

(二)校地実習地作物二段歩全部及び崩レ等)約百三十円

(三)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(四)校舎及附属物ノ被害状況

(五)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(六)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(七)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(八)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(九)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(十)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(十一)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(十二)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(十三)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(十四)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(十五)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(十六)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(十七)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(十八)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(十九)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(二十)校舎下り棟、斜壁(十五坪)約八十円

(一)六月三十日 一名モ出席セズ 此ノ日ヨリ休校ヲ各字ニ宣告ス  
 (二)七月七日 一人 七月八日 六二人 七月九日 四一人  
 七職員ノ被害状況及程度 此ノ日ヨリ次第第二欠席児童減少ス

(一)安誠正 川田村枝川 床上四尺五寸 流失損害約五百円位 (三分一流失)

八校舎ヲ避難ニ当テタルコトノ有無及状況

九要救護児童数 一 一流失セルモノ四〇名九六冊七月十一日直チニ補給ス(橋本書店寄付)

一〇罹災ノ為病氣ヲ発生セル児童及ビ状況 二 目下ノ所皆無ナルモノ一ヶ月後ハ相当数アルモノト認ム

一 保護者ニアルモ児童ニハ目下一名モナシ

一 学校消毒及清潔方法トシテ学校ノ取りタル処置ノ状況

一 減水後直チニポンプヲ使用シテ室内ノ泥流シヲナス 二日間  
 二 雑布ヲ使用シ室内器物全部ヲ清浄ニヌグウ 二日間  
 三 室内全部クレンジン液ニテ消毒ヲナス(使用量八本) 一日

四 便所及井戸校舎周囲ニハ石灰ヲ撒布ス(四俵)

五 児童ニチブス予防薬ヲ二回飲マシム

一 其他必要ト認ムル事項 二 将来復旧ニハ相当ノ困難ナル様ニ  
 一 比較的貧弱ナル本村トシテハ将来復旧ニハ相当ノ困難ナル様ニ  
 二 職員ニ本村居住者ハ学校長一名ニテ他ハ全部通勤アルモノト認ム

三 謝スルノ居住者四名ニ対シテハ其ノ労苦ノ偉大ナリシテ感

三 学校全体トシテノ被害ハ此ノ後充分ノ調査ヲセザル限り

資料 10 Ⅲ

資料 10 Ⅲ

一 増水ノ状況

六 月廿日午前一時より那珂川ノ増水甚ダシク支流  
 早 戸川(学校裏川)ノ排水ハ不可能トナリ見ル中ニ  
 増 水ヲ見学校長住宅ノ玄関床上ニ浸水ヲ見ル如ク

雨 ハ依然トシテ止マズ午前三時学校庭ハ湖ノ如ク  
 深 サ三十糎トシテ止マズ午前三時学校庭ハ湖ノ如ク

川 岸ナル故那珂川ノ浸入スル様ニ思ハルケレドモ實際ハ  
 其 予測ニ反シ北側校舎方面ヨリ流ル然シ流速遅キ

手 前六時トナルヤ俄然住宅床上三十糎ヲ越シ校舎床  
 上 同等ノ高サトナル

附 近ノ村民家財道具ヲ持チ学校ニ避難スル者數十人  
 子 女ハ泣キ全身ハ濡レ見ル者ノ同情ヲ引ク

午 後三時ニ床上三時七糎ノ大水ノ如ク床上六十糎  
 益 々増水 午後六時ハ最大浸水ノモノ如ク床上六十糎

糎 下ナル 午後六時ハ最大浸水ノモノ如ク床上六十糎





